

イネ科 イチゴツナギ属

# スズメノカタビラ (雀の帷子)

*Poa annua* L.

## 自生環境

水田、湿地 など

## 原産地

日本在来

## 生育を脅かす要因



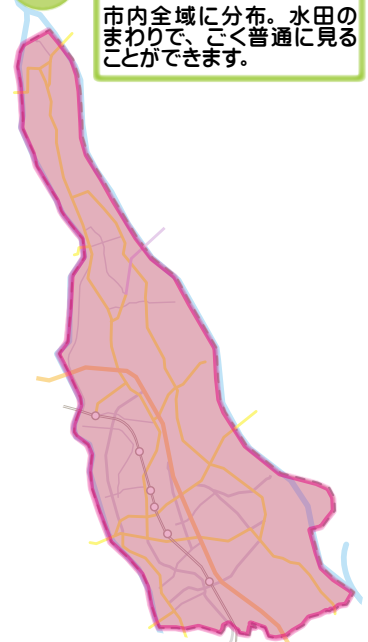
水田周辺でごく普通に見られ、今のところ絶滅の心配はありません。ただ、外来種のアオスズメノカタビラに押され気味で、今後の動向がちょっと気になります。

## 特徴

- ☆ 一般にスズメノカタビラと呼ばれているものには、2つの系統があります。本来のスズメノカタビラは水田に生える本種のこと、道ばたでよく見かけるものはアオスズメノカタビラと言うヨーロッパ原産の別な系統です。
- ☆ 水田の曆に適應した生活サイクルを送っています。つまり稲刈り後に発芽して越冬、早春に開花・結実をして、水田の作業が始まる前にはタネを残して枯れていきます。積雪の少ない地域では、冬のあいだも花の穂を出します。
- ☆ 草丈は5～15cmほどで、茎は株もとでひょろひょろしたりせず、がっしりとしています。葉は黄緑色で、寒さにあたるとやや紫がかります。穂はふつう紫がかった色です。小穂をつなく軸の部分には小刺は無く、護穎に毛がある点もアオスズメノカタビラとは異なります。

## 市内の分布状況

市内全域に分布。水田のまわりで、ごく普通に見ることができます。



## どの部分が帷子なの？

名前にある帷子(かたびら)は、朝や絹でつくった裏地のない着物のことを言います。いわば「昔の肌着」です。では、スズメノカタビラのどの部分がそれを連想させるのでしょうか。答えは穂です。穂をルーペで見ると、護穎の重なり具合が、着物のあわせの部分の連想させるのです。しかしこれを見て帷子を思い浮かべるなんて、昔の人の想像力は脱帽ものですね。



穂の色は紫がかる

株もとはがっしりしている



毛い護穎

護穎に毛がある

護穎の重なりが着物のあわせを連想させる



霜をまといつつ穂を出す真冬のスズメノカタビラ



葉は黄緑色。寒さにあたるとちよっぴり紫がかる



穂の軸に小さな刺は無い



早春の水田。黄緑色の部分はすべてスズメノカタビラ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

